

## 笑った人はだれ

班がえがあつて、たかし君がみゆる君、としえさん、ひろこさんの班になりました。たかし君は目が見えませんが、体育館やトイレの場所は覚えたので一人で行くことができます。でも、理科の実験や図工の時間など、だれかに手伝ってもらわなければできないこともあります。

「まあ、しようがないか。たかし、よろしくな。」

みゆる君は班長なので、移動教室のときはたかし君といっしょに行くことにしました。ろうかにほかのクラスの子たちがいると

「たかしが通るからどけよ。」

と言いながら歩きます。

としえさんは座席がとなりになったので、授業のときはたかし君の手伝いをします。ノートや教科書を出してあげたり、つくえから落としたものをひろってあげたりします。たかし君も、としえさんが手をかしてくるので、何かこまったときには、いつもとしえさんに聞くようになりました。

給食のときのことです。たかし君があやまってごはんをゆかに落としてしまい、食べられなくな

りました。今日はおかわりの分はありません。ゆかに落ちたごはんを片づけながらとしえさんが、「わたし、きょうはあまり食べられないから、半分わけてあげます。」  
と言って、たかし君に半分わけてくれました。

「そんなことしなくてもいいよ。落としたものが悪いんだから。」  
とみる君が言いましたが、としえさんは

「だってかわいそうじゃない。」

と答えました。たかし君は、だまつてとしえさんにわけてもらったごはんを食べました。

そんなようすを見ていたひろこさんは、そこにいることがわからないように、自分がたかし君のそばにいるときは、声を出さないようにしようと思いました。そばにいることがわかって、いろいろとたかし君に手伝いをたのまれると、めんどろだなあと思ったからです。

給食のあと、たかし君が

「としえさん、としえさん。」

と呼びます。としえさんが

「なに？」

と答えるとたかし君が、

「さつきはありがとう。今日ぼくの家へ遊びに来ないか。」  
と言いました。としえさんはちよつとこまったなと思つて

「ごめんね。今日はやくそくがあるの。」  
とうそをついてしまいました。

次の日から、としえさんはあまりたかし君の手伝いをしなくなりました。たかし君がつくえからものを落として

「としえさん、ひろつてくれる？お願いします。」  
と言つても、

「みのる君のそばへころがつていったから、みのる君、お願いね。」  
と言うようになりました。

次の日の朝のことです。朝の会で先生が

「きょうは、たかし君は、熱が出たのでお休みです。」

と言いました。みのる君が

「あーこれできょうは思いきり遊べるぞ」

とおどけて言いました。教室のあちこちで笑い声が聞こえました。先生がみのる君に、

「そんなこと言っていないのかな。」

というときみのる君がすぐに

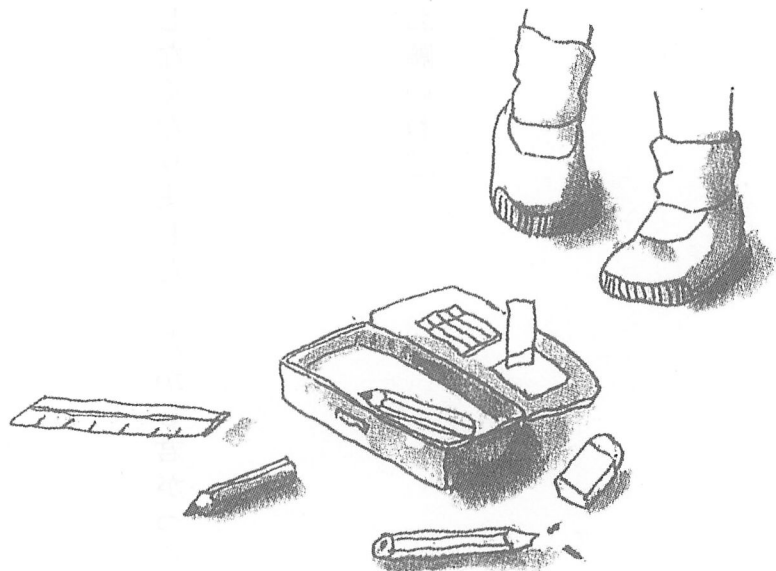
「すみませーん。」

と言ったので、また笑い声がおこりました。

その日としえさんは日記にこんなことを書きました。  
た。

「みのる君が、たかし君が休みなので『思いきり遊べる』と言ったとき、笑った人が何人もいました。もしその場にたかし君がいたらどう思うかなって考えました。みのる君は先生に注意されてすぐに『すみません』って言ったけれど、わたしは、笑っていいことかなあって思いました。」

次の日、先生がみんなの前でこの日記を読み上げみんなで話し合いが始まりました。



# 笑った人はだれ（小学校高学年向け）

## A 教材設定の意図

差別事件は、必ずしも差別解放を願う人達とは対極にいる人間だけが起こすとは限らない。差別はいけないこと、差別のない社会（学校）にしなければと思っただけでも、ふとしたことから内面に持っている差別意識が吹き出ることがある。

教室の中でも、たとえば障害を持っている子のように被差別の側にいる友達に対して、日頃からまったく関わりのない子どもよりも、関わりのある子どもから差別的な言葉が飛び出すことがある。また、逆にその子がそうした差別を指摘する側に立つこともある。子どもたちは、いつも差別する側にいたり、あるいはいつも差別を糾弾する側にいたりするわけではないのである。そうした子どもたちの集団だからこそそのようなとき、差別的な発言をした子どもだけでなく、学級全体がお互いの人権を大切にすることを学ぶきっかけとしたい。

差別は、差別をするもの、差別をされるもの他に、差別を容認するもの、つまり関わりを持つのを避け、傍観する立場にいるものがあることによつて成り立っている。本教材では、傍観的な立場にいる子どもにも焦点をあてている。クラスの中に差別やいじめを容認する空気があるとすれば、それは大多数の何も関わろうとしなかった子どもたちの存在によるところが大きい。

差別が容認されるような風潮が見え始めた時、学級としての

まとまりもいびつなものになっていく。そんな時に、差別をするもの、それを許してしまうものの問題を浮き彫りにして考えさせたい。

## B 教材の解説

本教材は県内のある学校のできごとをヒントに創作したものである。石川県内では今のところ、全く目の見えない子どもが普通学級に籍をおいて共に学んだという報告はない。だからといって、ここでの話が「身近なものでない」ということはない。たかしを、教室の中でいじめられている子、ハンディを持っている子に置き換えて考えてみると、あてはまるようなできごとがあるのではないだろうか。

ここではたかしをめぐって、それぞれの立場の違う三人の子どもが登場する。

みるのは、班長としての責任感からたかしの「世話」をする。しかし、「仕事」としてたかしの「世話」をすることは、絶えずそこから解放されたいという願いが後追いついてくる。それが、たかしが休みと知った時に思わず言葉として現れてきている。

とはいえ、はじめはたかしに対する「同情」からたかしにやさしく接する。しかし「かわいそう」だけではつき合い切れなことが明らかに。としえのやさしさに甘えたたかしが一步としえの世界に踏み入ってきたとたん、としえはじりじりと

後退していく。そんなとしえだが、みのるの言葉とその時のまわりの笑いには納得できないものを感じている。

ひろこは、みのるやとしえのたかしとの関わり方を見て、あまりたかしと関わりたくないと思う。面倒なことに巻き込まれたくないという心理だが、そばにいたことが悟られないように振る舞うということは、目の見えない者に対する差別的な行爲でもある。

他にもたかしと積極的に関わりを持つとする子や、あるいは消極的ながらも決して敬遠するわけではない子など、いろいろな立場の子がいることが考えられるが、ここではあまり複雑にならないように三人の子どもだけを登場させた。おそらく子どもたちの中には、この三人の誰かに自己を重ねる子もいるだろう。

まずたかしを取り巻く子どもたちの心理を考えながら、その言葉や関わり方が、目の見えないたかしに対し、人権をどれほど侵害しているかを考えさせ、それを容認してしまっている教室の空気の象徴が「笑い」であることをおさえたい。

### C 指導上の留意点

① たかし自身については本教材ではあまりその姿が見えていない。もしたかし自身のいるところでこうした差別的な言葉が聞かれた時、たかし自身が自己の意思を表明することは、重要なことであるが、難しいこともある。堂々と学級の中で意思を表明できるように配慮してほしい。そのためには、まず書かせることも大切である。

### 本教材を使った授業から

◆ 「どうして目の見えない子がこのクラスにいるの」という子ども達の疑問から始まり、教材から少し離れて、共に学ぶことの大切さを話しました。目が見えないということと同情ばかりだと我慢する人も出てくる。また本人が病気に甘えているばかりでもだめだ。「普通の友だち」として学校生活をしていけたらという意見が出てきた。(石川)

◆ たかしくんのような児童はいないが、弱者に対してよく似た事例がクラス内にも見られ、それに対して笑った子の意識がとて低く、彼らの意識を気づかせるためにはとてもよい教材だったと思う。(石川)

◆ 自分がどのタイプの人間か正直に話を出し合い、どうしていかなければならないかを考えることができた。(七尾)

◆ たかしを取り巻く子どもたちの心理を考えながら、その言葉や関わり方が、目の見えないたかしに対し、人権をどれほど侵害しているかを考えさせるのにふさわしい教材と考える。子どもたちのどれかに自分を重ねながら読める教材だと思う。(鹿島)

D 授業の展開例

教師の基本発問・助言	児童の活動・指導の要領
<p>一 導入</p> <p>① 題名について考えさせる。 ・教室の中で笑いが起きるのはどんな時か。</p> <p>二 展開</p> <p>② 教材を読む。 ③ たかし君はどんな子か。 ④ たかし君の班の人はどんな人か。 ⑤ たかし君は、班の人たちをそれぞれどう</p>	<p>① 本文は見せずに題名のみ板書し、想像をふくらませたい。</p> <p>② 本文を黙読しながら、わからない語句に線を引く。 ③ 目が見えないということのほかに、仲間に助けられながらいっしょに勉強している姿をとらえさせる。 ④ たかしとの関わりの中でどうなのかを考えさせる。 ・ 「班長」としての責任感からたかしと関わる「みのもる」。 ・ 「かわいそう」という気持ちから関わりを持った「としえ」。 たかしの「期待」が重荷になり、少し距離を置くようになる。 ・ 「としえ」のようにたかしと関わりと面倒なことになると思い、側にはいないことになってしまう「ひろこ」。 ⑤ それぞれの子どもたちの関わり方の中から自由に想像させる。</p>

思っているでしょう。

⑥としえさんが書いてきた日記について考えましょう。

・笑った人はどうして笑ったのでしょうか。

・としえさんは、どうして笑っていいことかと思っただけでしょう。

### 三 まとめ

⑦自分たちのクラスの中で、似たようなこととはないだろうか。

⑥その場を笑いに誘うような一言も、言われた相手を傷つけることがあることに気づかせる。としえは、たかしを避けるようになりながらも、たかしに対する差別的なことばが気になったことを通し、誰もが差別をしたり、差別を許さなかったりする立場になり得ることをおさえる。

⑦友達が傷つくような言葉に対して、同調して笑ったり、はやしたてたこととはないだろうか、振り返って書かせる。